



特集

辰ノ口さくら祭り

毎年3月下旬から4月上旬に辰ノ口親水公園で開催する「辰ノ口さくら祭り」。平成21年からスタートしたさくら祭りも今年で16回目を迎えます。今月号では、今回のさくら祭りの見どころをお伝えするとともに、祭り期間外でも楽しめる辰ノ口親水公園の魅力やさくら祭りを支える人々の思いをご紹介します。

祭りの主役は約1.3kmの桜づつみ

さくら祭りの主役はなんといっても、約1.3kmにわたり約130本の桜が咲き誇る桜づつみ。桜の木の根本に咲く菜の花の黄色との対比も美しく、ゆったり歩きながら、春の風景を楽しめます。

3月22日から4月6日には桜のライトアップを実施します。白い光に照らされた桜が、暗闇の中で幻想的に輝く、美しい光景が見られます。



桜づつみライトアップ

3/29 には限定イベントも！

出店・キッチンカー

キッチンカーなど約30の出店者が集います。ガッツリ食事系からワンハンドスイーツまで、「花より団子」派な人も楽しめます！



竹あかりワークショップ

辰ノ口地区の竹林整備で伐採した竹を生かしてあかりを作るワークショップ。作った作品は、持ち帰りができます。



花火大会

内閣総理大臣賞 通算21回受賞の野村花火工業株式会社による花火大会。今年は約1,000発の花火が春の夜空に大輪の華を咲かせます。

さくら祭りと同時開催！竹あかりイベント

ドラゴンバンブー DRAGON BAMBOO



辰ノ口地区にある放置竹林を整備し、間伐材を使用して地域住民とともに創り上げた、全長240mの竹あかりアートイベントです。総合プロデュースは、日本発、世界初の竹あかり演出家集団「CHIKAKEN〈ちかけん〉」。竹あかりの幻想的な光に包まれた竹林は壮観です。



▲温かい光に照らされた竹のゲートと「DRAGON BAMBOO」の看板が印象的な入場口。幻想的な空間へと誘います。



▲会場に入ると、イベント開催前のワークショップ参加者が作成した、さまざまな模様の竹あかりが来場者を出迎えます。

DRAGON BAMBOO

開催概要

【期間】 3月22日～4月6日

【入場時間】 18:00～20:00
(最終退場時間：20:30)

【入場料】

高校生以上

・現地販売 1,000円

・オンライン 800円

中学生以下：無料

▶オンラインチケット
販売はこちらから



▲出口から駐車場までの道のりでは、ライトアップされた竹の美しさを楽しめます。

▶竹あかりが彩るドラゴンのフレームは記念撮影におすすめです。



さくら祭りの期間外でも楽しめる！

辰ノ口親水公園

久慈川を臨み、特徴的な施設・サービスから市内外にファンを持つ公園です。

芝生広場は子どもの遊び場としてはもちろん、犬の散歩や自転車練習にもぴったり。

水・金曜日にはグラウンドゴルフの利用も可能です。(要予約・無料道具レンタルあり)

問辰ノ口親水公園 ふるさと館
住所：辰ノ口 1339-2
電話：52-1583
(受付時間：9:00～17:00)



竹林をレンタサイクルで駆け抜ける！

BMX コース

竹林に包まれるコースでサイクリングを楽しめます。近年ではシクロクロス(自転車レース)の大会も開催され、参加者にも好評です。管理棟では、自転車のレンタルも行っています(予約不要・無料)。



6月も季節の花を楽しめる！

あじさい園

6月中旬から下旬にかけて、一面にあじさいが広がる「あじさい園」。毎年、写真好きが集まり、撮影会も開催されています。あじさいの美しさを楽しめるほか、東屋や橋を生かした撮影もできます。



手打ちの常陸秋そばが味わえる！

しんすい庵

ブランド品種「常陸秋そば」を使った手打ちそばを、自家製のかえしと、昆布・カツオ・サバなどで、ていねいに取っただしで作るつけ汁で味わえるお店です。

営業時間：11:00～14:00
定休日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日)



Interview さくら祭りを支える人々



平成20年から現在まで、公園の管理を続けてきた辰ノ口区。区を代表して、区長の古徳さん、辰ノ口親水公園ふるさと館の館長である野澤さんに、お話を伺いました。

プロから「全国有数」と言われた辰ノ口の竹林

今回の辰ノ口さくら祭りで、新たなプログラムの場所となった公園内の竹林。この竹林は堤防の役割として江戸時代に人の手で作られたものだそう。「公園内の竹林は、上から根本まで均一の太さで成長する『真竹』の竹林です。私が幼いころは、材料として竹の需要があり、よく売れました」と古徳区長は教えてくれました。また、野澤館長は「栃木県で竹林を活用した観光農園を営むワカヤマファームや、竹あかりの総合プロデュースを行うCHIKAKEN〈ちかけん〉から『全国的に見ても、これだけ立派な真竹の竹林はない』と褒めていただきました」と誇らしげに話してくれました。

さくら祭りに向け約半年前から準備

例年、さくら祭りの準備は9月ごろ、桜づつみの根本に菜の花の種をまくところからスタートします。さくら祭の期間に、桜とともに菜の花が咲き誇るように調整を行っています。また、公園だけでなく、公園の敷地外でも、桜づつみを見たときに視界に入るような場所は可能な限り草刈りし、できるだけ美しい景色を楽しんでもらおうと準備を行います。

今年は、例年の準備にプラスして、竹あかりイベントのため、竹林の整備を行いました。古徳区長は「イベントにあたり、竹林整備作業に協力できる区民を募ったところ、多くの方が協力してくれました。実際に整備作業を始めたのは9月ごろからで、振興財団や市の職員とともに行いました。竹の本数が多くなってしまっていた竹林が、イベントをきっかけにきれいになりました」と話します。

竹あかりのともったコースを見た区民から「素晴らしい」の嵐

2月1日には、試験的に竹あかりを点灯しました。竹林がパワーアップした姿を見たいと多くの区民が訪れ、そのときの様子を古徳区長は「『素晴らしい』と何人もの方に言っていただきました」と嬉しそうに話してくれました。試験点灯のあとも、コースを延長し、竹あかりの数が増える予定で、野澤館長は、「試験点灯から、さらにコースが伸び、当日にはどんなに素晴らしいものになるか、期待して止まらないです」と自信をのぞかせました。



全国的に珍しい桜と花火の光景は強い魅力

祭りの準備の中で、実行委員会では主に協賛金募集を担当しました。「『桜と花火の組み合わせは珍しく、全国で名高い野村花火工業株式会社が手掛けるんです』と話す、多くの事業所から、快く協力を得ることができました」と木村さん。市内外とのつながりなども生かし、協賛金を募った結果、予想以上の協力を得られたといいます。

自分たちの力で長く続けられるイベントにしたい

今回から、実行委員会を立ち上げたの運営となる辰ノ口さくら祭り。木村さんは「年間を通して準備していることもあって、関わった人々の気持ちがこもったイベントだと感じています。これまでの開催で基礎ができていますので、今後、実行委員会を成長させて、自分たちの力で長く続けられるイベントにしていきたいです」と話してくれました。